

○ 本校の概要

本年度は、1年4学級、2年4学級、3年5学級、計13学級の生徒数450名(4月現在)、相談学級2学級の規模である。教職員は37名(教員27名、事務・栄養士2名、講師3名、スクールカウンセラー3名、支援員2名)で構成している。本校では、小・中のスムーズな連携をめざして、小学校3校との学校間交流を協力を進め、授業研究・わくわく体験・体験授業・生徒会による学校紹介・小中合同ボランティア活動等の行事に取り組み、生徒一人一人の個性と適性を把握し、伸張を図っている。また、学校支援地域本部により二中心連携としてさらに活動を広げている。部活動を始めとし、生徒の様々な活動の場で保護者と地域が連携し応援している。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 コメント
ブラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にかなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とコミュニケーション能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	「授業で自分の意見を発表するなど意図的に取り組んでいる」とアンケートで回答した生徒が80%以上	4:	<外国語教育> 外国語教育指導員と連携し、自分の考えを伝え合う活動を行うことができた。定期的に授業に入っていたり、休みに生徒を集めてALTと話す機会を設けることができた。 <科学的な思考> 「おおたものづくり」がよくわからないので、これを生かした体験活動というものはやっていた。 論理的思考力の育成を目指す数学授業はいつも行っている。積極的に今後と入れていく。 <ICT機器> ICT機器を利用して生徒に資料を提示したり、オンライン授業を実施したり、調べ学習で活用することができた。単元によっては、よく使ったこともあったが、平均すると週1回はない。毎修行ICTを活用した授業をおこなっている。70%以上の授業でICTを活用できた。今後も積極的に活用していく。デジタル教科書等ほぼ毎時間活用している。毎回の授業で教員用のスライドを作成し、授業の補助教材として提示している。また、定期考査の振り返りではグループフォームを活用して実施した。 <人権教育> 積極的に今後と入れていく。全校朝礼や道徳の時間で話し、振り返りなどで内容の確認をしている。 <体力向上> 体育科にお任せしてしまった部分が大きかった。全教員で生徒の体力向上に努めることができなかった。体育科は授業等で行ったことも多いが、他の教員は実践していないと思う。自分自身、「一校一取組」「一学級一実践」を理解していない。教科の範囲で行っている。	・3年生の授業を見学し、オンラインと対面のハイブリット式で実施されているのを見せていただきました。せんせいがたはなれたようだったのでかんしんしましたが、自宅で授業を受ける生徒や保護者にも感想を聞いてみたいと思います。 ・人権教育とは、特別な資料や講話だけでなくむしろ先生方の日常の言動によってなされるものだと思います。生徒の困りごとや問題への対応こそが肝心だと考えます。 ・反省点を認識されているようだが、改善点が示されていない。 ・取組表が多い物についても、よくわからない部分が多くあります。体力向上で「1」はともにも気になる部分です。お任せとはどういうことでしょうか。
		理論的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	「授業で自分の意見を発表するなど意図的に取り組んでいる」とアンケートで回答した生徒が70%以上	3:		
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	「授業で自分の意見を発表するなど意図的に取り組んでいる」とアンケートで回答した生徒が60%以上	2:		
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	「授業で自分の意見を発表するなど意図的に取り組んでいる」とアンケートで回答した生徒が60%未満	1:		
ブラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学び意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	「学校の授業はわかりやすく、基礎・基本が身に付いている」とアンケートで回答した生徒の割合が80%以上。	4:	<学習カルテ> 苦手な単元の復習方法について指導するなど、生徒のつまずきの早期発見のために活用した。定期的に個人のみ、また、保護者と生徒の三者で面談を実施した。三者面談等で学習的な課題について触れた。三者面談で確認している。 <夏休みの学習> 単元ごとに点検をして評価をして返しているが、「チェックシート」は活用していない。定期テスト毎に回収し持ち帰らせている。 <確かな学力> 英語で自分の考えをまとめ、発表し、意見を交換する活動を実施している。数学の授業で、途中式等の思考過程・根拠を示すよう、かなり徹底して指導している。発表の場を多く設けて授業を展開することができた。学活や道徳の時間でクラスメイトの意見を共有している。単元のまとめなどで自分の意見を発表する機会を積極的に設けた。	・昔に比べて学習指導も本筋に細やかなことにかさねられます。それによって学力が向上するなどの恩恵を受けている生徒が多いのだから想像しますが、膨大な事務処理を求められる先生方にはお気の毒だと思います。 ・補習に関して「実施した」「働きかけた」参加を促した」とのことですが、対象生徒たちは自裁にどの程度参加できているのか気になります。誰でも希望すれば参加できるわけではないのでしょうか。 ・学力の向上については、今まで同様もあり、しっかりと取り組んでいて感じます。ただ、ステップ学習の自己評価が低いのは、教員の意見を見る限り、どうやら取組の指標があてられていないと思う。 ・こちらで「算数・数学ステップ学習」で「1」とはよくわからないです。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2～3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	「学校の授業はわかりやすく、基礎・基本が身に付いている」とアンケートで回答した生徒の割合が70%以上。	3:		
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%未満であった。	「学校の授業はわかりやすく、基礎・基本が身に付いている」とアンケートで回答した生徒の割合が60%以上。	2:		
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	「学校の授業はわかりやすく、基礎・基本が身に付いている」とアンケートで回答した生徒の割合が60%未満。	1:		
ブラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心を大きく育てます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	「ボランティア活動等を通して、思いやりの精神を身につけることは大切である」とアンケートで回答した生徒の割合が80%以上。	4:	<生活指導> 「社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める」指導は行っているが、別に「小中一貫による教育の視点には立った」ということではない。学活や道徳で生かしている。小中一貫の会において、両校の意見交換を行った。 <道徳教育> <学校生活調査> 三者面談時や放課後に生徒と個別に相談するなど、組織的に対応できた。3者面談などで活用し、生徒への声かけ指導を行っている。それ以外の教員がそれぞれの対応をしているが、「組織的対応」とは言えないと思う。担任だけでなく、学年の教員、カウンセラーと繋げて指導できた。校内支援委員会等を通して教員間での共有を図りながら対応した。学年会で共有し、三者面談で本人に確認している。 <休み会議> 休み時間も含めて、生徒の様子を観察したり、話を聴いたりしている。いじめ防止基本方針の内容を確認するとともに、生徒の口頭の様子に目を配った。今後に聞き取り調査をして、小さな悩み事やトラブルから解決するようになった。学年会で共有し、個別に聞き取りを行っている。必要に応じて、生徒の個別相談などを行った。 <確かな学力> 必要と思われる生徒には、スクールカウンセラーの紹介など、組織的な対応を行うようにしている。した。毎週会議をして周知した。つばさ教室等と連携を取りながら、生徒対応を行っている。学年間、学校内で共有している。ケース会議は担任や学年主任以外にも、もし可能ならば学年の教員も参加したほうが、情報共有しやすいのではないかと考えています。SCや他機関との連携を密にとり、個々に応じた指導、接し方をお掛けしている。 <学級集団> 学級においては一人一人役係や委員会などを任せ、自ら主体的に学校生活に取り組めるように配慮を行っている。している。オンラインで授業を配信したりした。掲示物はきれいに貼ることを心がけている。また古いものはすぐ外す。きちんとしていると掲示物が見張っているような印象がある。また床に、机の脚の位置の印があるので生徒だけでも清掃活動がスムーズに進めることができる。丁寧な清掃、学級活動に全員が参加するように取り組みを行った。	
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に1回(年間3回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	「ボランティア活動等を通して、思いやりの精神を身につけることは大切である」とアンケートで回答した生徒の割合が70%以上。	3:		
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	「ボランティア活動等を通して、思いやりの精神を身につけることは大切である」とアンケートで回答した生徒の割合が60%以上。	2:		
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	「ボランティア活動等を通して、思いやりの精神を身につけることは大切である」とアンケートで回答した生徒の割合が60%未満。	1:		
ブラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	「体力向上や健康増進の規則正しい運動や食生活に努めた」というアンケートで回答した生徒の割合が80%以上。	4:	<早寝早起き> ホームルームで定期的に指導を行っている。行った。総合の時間に食育の授業を行った。学級通信を通して、規則的な生活習慣の重要性を生徒および保護者に周知している。 <食育> 給食指導中に指導を行っている。行った。総合の時間に食育の授業を行った。毎回のプリントを読み上げている。給食指導において、挨拶の徹底や季節の食についての説明などを行った。 <運動習慣> 行った。学級通信などを通して、運動習慣の大切さ、健康の重要性などを伝えた。 <遅刻0> 登校が遅れがちな生徒には個別に指導したり、家庭に連絡し協力して対応するなどの配慮を行っている。行った。8時25分より前には教室で待機し、速やかな朝読書を促す。予鈴遅刻が目立つ生徒には個別に指導を行っている。	
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらった「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	「体力向上や健康増進の規則正しい運動や食生活に努めた」というアンケートで回答した生徒の割合が70%以上。	3:		
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	「体力向上や健康増進の規則正しい運動や食生活に努めた」というアンケートで回答した生徒の割合が60%以上。	2:		
		規則正しい生活を目指して遅刻0を目指す。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	「体力向上や健康増進の規則正しい運動や食生活に努めた」というアンケートで回答した生徒の割合が60%未満。	1:		
ブラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりまします。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	「輝く校舎を目指して、校内美化に努め、清掃活動に取り組んでいる」とアンケートで回答した保護者の割合が80%以上。	4:	<早寝早起き> ホームルームで定期的に指導を行っている。行った。総合の時間に食育の授業を行った。学級通信を通して、規則的な生活習慣の重要性を生徒および保護者に周知している。 <食育> 給食指導中に指導を行っている。行った。総合の時間に食育の授業を行った。毎回のプリントを読み上げている。給食指導において、挨拶の徹底や季節の食についての説明などを行った。 <運動習慣> 行った。学級通信などを通して、運動習慣の大切さ、健康の重要性などを伝えた。 <遅刻0> 登校が遅れがちな生徒には個別に指導したり、家庭に連絡し協力して対応するなどの配慮を行っている。行った。8時25分より前には教室で待機し、速やかな朝読書を促す。予鈴遅刻が目立つ生徒には個別に指導を行っている。	
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に1回(年間3回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	「輝く校舎を目指して、校内美化に努め、清掃活動に取り組んでいる」とアンケートで回答した保護者の割合が70%以上。	3:		
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	「輝く校舎を目指して、校内美化に努め、清掃活動に取り組んでいる」とアンケートで回答した保護者の割合が60%以上。	2:		
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2～3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	「輝く校舎を目指して、校内美化に努め、清掃活動に取り組んでいる」とアンケートで回答した保護者の割合が60%未満。	1:		
ブラン6 なびく学校・地域が担う役割などを明確にし、地域に関わった教育の実現を目指す。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に関わった教育の実現を目指す。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	「学校が出す文書、学校だより、ホームページ等は分かりやすく、学校の活動についてよく伝えている」とアンケートで回答した保護者の割合が80%以上。	4:	<情報発信> <地域教育連絡協議会> <地域支援本部> <キャリア教育> <コロナ対応> <ボランティア>	
		地域教育連絡協議会において、生徒の姿等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	「学校が出す文書、学校だより、ホームページ等は分かりやすく、学校の活動についてよく伝えている」とアンケートで回答した保護者の割合が70%以上。	3:		
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4:学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	「学校が出す文書、学校だより、ホームページ等は分かりやすく、学校の活動についてよく伝えている」とアンケートで回答した保護者の割合が60%以上。	2:		
		地域と連携して職場体験などのキャリア教育や道徳地区公開講座などの教育を実施している。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	「学校が出す文書、学校だより、ホームページ等は分かりやすく、学校の活動についてよく伝えている」とアンケートで回答した保護者の割合が60%未満。	1:		